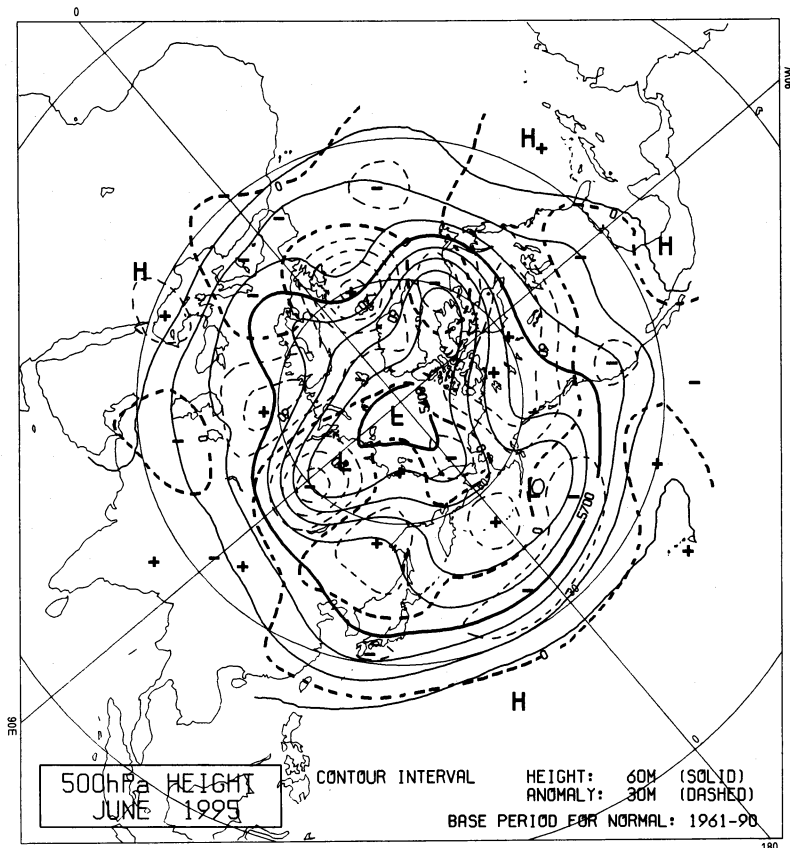


1995年6月の大気大循環と世界の天候 月平均 500 hPa 天気図



(破線は平年からの偏差. 単位m)

表 1 1995年6月の気候表

地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級	地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級
パリ	16.2	-0.1	-0.1	18	31	1	カサブランカ	20.8	0.7	1.0	1	17	2
マドリード	22.0	1.3	0.8	32	121	4	バマコ	29.1	0.4	0.5	89	70	—
ワルシャワ	17.4	0.8	0.6	77	109	—	プレトリア	10.6	-0.7	-0.5	0	0	3
イスタンブール	23.3	2.2	2.8	71	96	3	バンクーバー	—	—	—	—	—	—
モスクワ	19.7	3.1	1.5	72	94	—	セントルイス	24.2	0.4	0.3	75	80	3
オデッサ	—	—	—	—	—	—	サンフランシスコ	16.0	-0.2	-0.2	15	536	5
ニューデリー	—	—	—	—	—	—	ニューヨーク	22.4	0.7	0.6	61	67	2
カルカッタ	—	—	—	—	—	—	メキシコ	19.1	1.4	1.4	98	64	—
ボンベイ	—	—	—	—	—	—	アスンシオン	19.8	1.9	1.0	5	7	0
ホンコン	28.3	0.5	0.8	257	67	2	プエノスアイレス	11.1	0.0	0.0	31	50	2
チャンチュン	21.4	1.2	0.8	101	118	4	ホノルル	27.4	1.1	2.2	1	8	1
ペキン	—	—	—	—	—	—	タヒチ	—	—	—	—	—	—
シャンハイ	23.0	—	—	167	—	4	ダーウイン	24.7	-0.6	-0.6	1	50	4
バンコク	29.6	0.3	0.6	248	168	—	キャンベラ	7.2	0.7	0.7	40	137	3
マニラ	28.9	0.5	0.5	—	—	—	シウウキチ	-20.9	-5.1	-2.3	—	—	—

6月の世界の天候

北半球 500 hPa 高度場を見ると、60°N 付近では前月から引き続きブロッキング高気圧が出やすい状況になっており、北半球の東西指数は -45 m と1989年に次ぐ2番目に低い記録となった。ロシア西部・太平洋北部・カナダ北部及びベーリング海から東シベリアにかけて正偏差になった。中央シベリアは顕著な負偏差となり、中国東部から北米大陸にかけての中緯度では帯状に負偏差域が広がった。

①中国の高温

中国中部から西部では高温少雨となり、干ばつの被害が伝えられた。一方、長江流域など中国南部では大雨が繰り返し発生し、各地の洪水で200人以上の死者が伝えられた。ナンチャンでは月降水量 680 mm (256%) を記録した。

②タイからインドネシアにかけての高温

インドシナ半島では全体に高温となり、多雨傾向の所が多かった。パキスタンも高温傾向の所が多く、熱波による150人以上の死者が報じられた。

③ヨーロッパ東部からアフリカ中西部にかけての高温

④アフリカ北西部の多雨

ヨーロッパ東部では平年より2°C以上高い気温とな

り、干ばつの被害が報じられた。また、ノルウェー南部では上旬に融雪と大雨による大規模な洪水が伝えられた。中東からアフリカ北部、西部にかけても高温となった。エジプトのハルガでは月平均気温35.1°C (+3.2°C) を記録し、エジプトでは熱波による被害が報じられた。一方、アフリカ北西部では多雨の所が多くなった。

⑤アメリカ合衆国北東部の高温少雨

⑥アメリカ合衆国の多雨

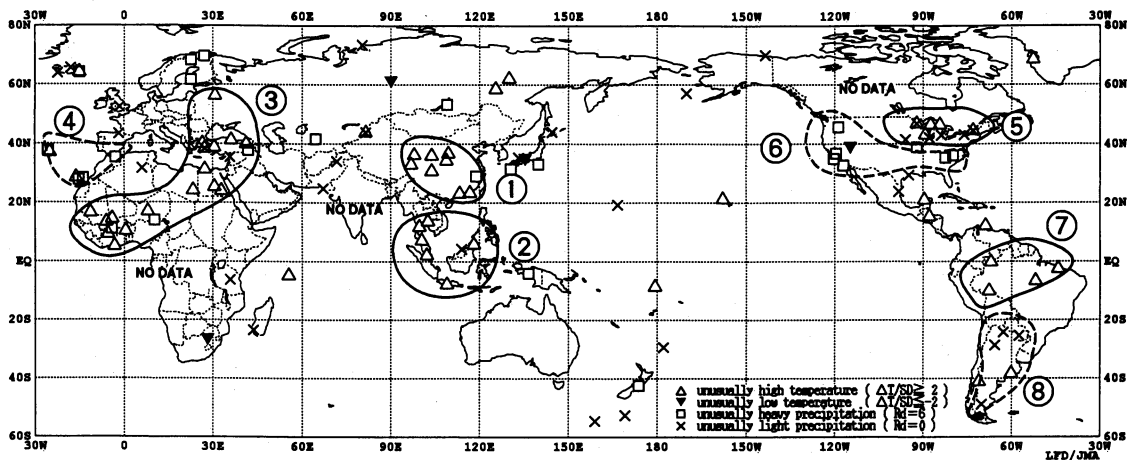
アメリカ合衆国北東部やメキシコ東部では高温少雨となり、ミシガン州マーケットでは月平均気温19.1°C (+3.8°C)、月降水量 38 mm (49%) を記録した。アメリカ合衆国西部などその他の地域では低温多雨の所が多く、バージニア州で洪水が伝えられた。

⑦ブラジル北部の高温

⑧アルゼンチンの少雨

ブラジル北部など南アメリカ北部で高温となった。アルゼンチン北部、中部は高温傾向で南部は低温傾向となった。また、アルゼンチンでは北部を中心に少雨の所が多かった。

(気象庁予報部長期予報課 石原 幸司)



1995年6月の世界の異常天候分布図

図中の番号は、本文中の番号と対応している。

△：高温 ▼：低温

□：多雨 ×：少雨

1995年6月の気候表の説明。平均値は、1961～1990年のデータに基づくもの。降水階級は五分位値で、0は最小値より小さい場合、6は最大値より大きい場合。500 hPa 高度場の平均値は1961～1990年の30年平均値。

ENSO の現況 (1995年 6 月)

1995年6月の月平均海面水温偏差の分布を第1図に示す。太平洋赤道域では、ペルーの沖合いで平年より0.5~1°C低かったほかは、155~120°Wを除いて正偏差域が広がっていた。しかし、あまり大きな正偏差は見られなかった。

太平洋全域では、30~45°Nの170~140°Wで平年より1°C低かった。また、(25°N, 120°W) - (0°, 160°E) - (20°S, 110°W)の3点を結ぶ馬蹄形状に平年より0.5°C程度高い海域があった。この馬蹄形状の正偏差域は1990年以降たびたび現れている。

第2図は、同図の一番下の地図上に示された4海域(A~D)の月平均海面水温の平年偏差の時系列である。エルニーニョ現象の推移の目安となる太平洋東部赤道域(B海域, 4°N~4°S, 150°W~90°W)の海面水温は、1994年10月から1995年2月にかけて平年より0.5°C以上高くなっていて、3月以降平年より低くなり、5月には平年より0.4°C低くなった。しかし、6月の偏差は-0.1°Cとなり、やや上昇した。また、太平洋西部熱帯域(D海域, 0°~14°N, 130~150°E)では1994年12月から1995年4月にかけて負偏差が続いていたが、6月の偏差は+0.3°Cと平年よりやや高くなった。

一方、太平洋中部赤道域(A海域, 4°N~4°S, 160°E~150°W)では、1990年以降正偏差が続き、1995年6月の偏差も+0.5°Cであった。A海域で5年以上も平年より高い状態が続いているのは、1950年以降初めてである。

第3図は南方振動指数(SOI)の時系列である。SOIは1995年3月に+0.4と13か月ぶりに正の値となったが、4月が-1.4, 5月が-1.1となり再び大きな負を示した。6月は-0.1と平年並の値になった。

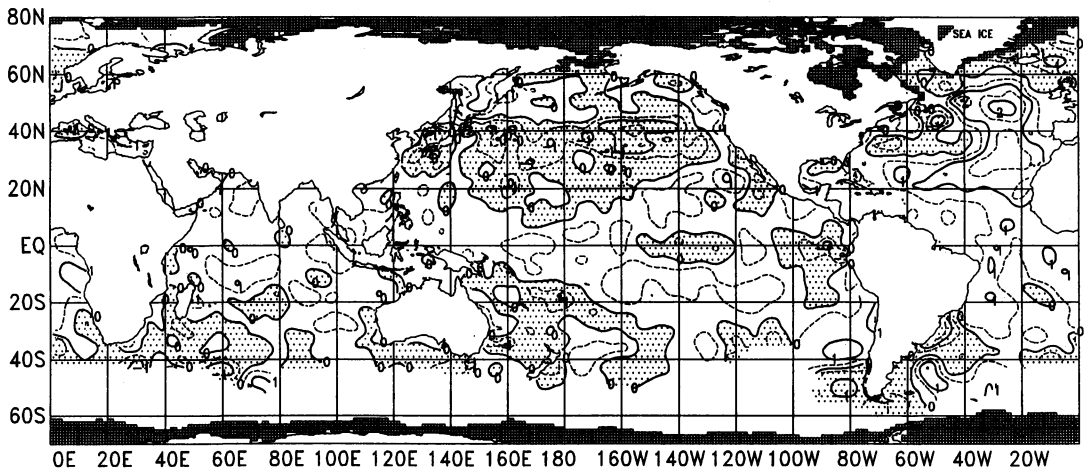
以上のことから、太平洋中部赤道域で平年より高い海面水温が続いているものの、1995年6月は全般的にはほぼ平年並の状態であると考えられる。

(気象庁海洋気象部海洋課

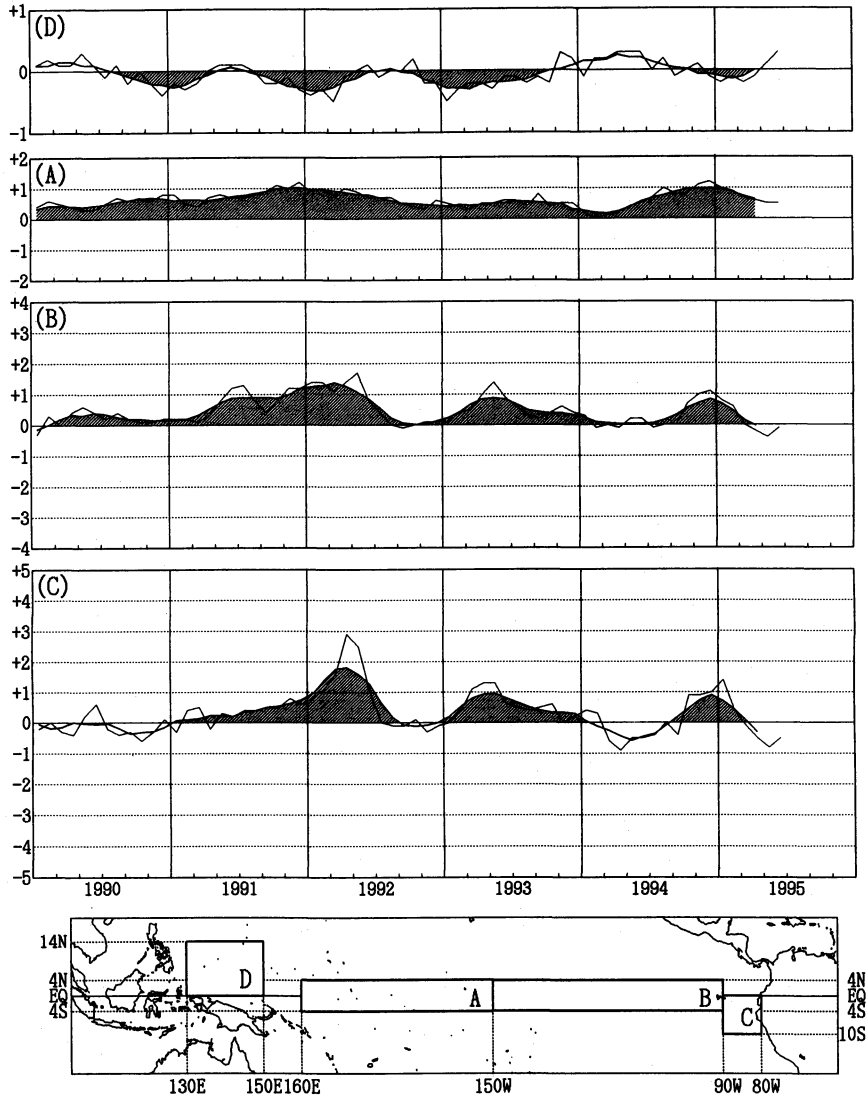
エルニーニョ監視センター・水野孝則)

なお、気象庁では、「エルニーニョ監視速報」、気象庁海洋月報により、エルニーニョ現象の状況を毎月発表しています。詳しくは、気象庁海洋気象部海洋課エルニーニョ監視センターにお問い合わせください。

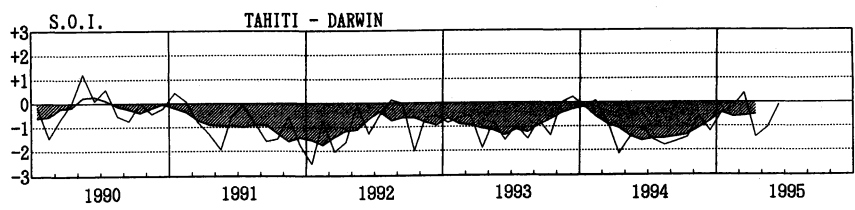
(電話：03-3212-8341 内線5134)



第1図 全球月平均海面水温偏差図(1995年6月)。実線は1°C毎、破線は0.5°C毎の等値線を示す。陰影部は平年より低いことを示す(平年値は1961~1990年の30年平均)。



第2図 太平洋赤道域の4海域の月平均海面水温の年平均偏差の推移(単位:°C)。細線は月平均値,太線は5か月移動平均値を示す。D海域において,陰影部は5か月移動平均値が平年より低いことを示す。A~C海域においては,陰影部は5か月移動平均値が平年より高いことを示す(平年値は1961~1990年の30年平均)。各海域の場所は一番下の地図上に示す。



第3図 南方振動指数(SOI)の推移。線種は第2図と同様。陰影部は5か月移動平均値が負であることを示す。